

企業名： 三協立山

レポート名： 統合報告書 2021

1. この会社が目指す姿が理解できるか

三協立山は建材事業、マテリアル事業、国際事業、商業施設事業の4事業を主に展開する企業である。同社はお得意先・地域社会・社員の三者協業のもと新しい価値を創造し、顧客が満足のいく提供を通じて単に企業を成長させるだけでなく、人々の豊かな暮らしの実現に貢献することをその経営理念として掲げている。VISION2030ではサステナブルで環境面に配慮した安心で快適な社会の実現、豊かな暮らしに貢献するとともに、バランスの取れた多角化した経営を目的としている。この企業はESG投資に現在最も力を入れていることが理解できる。目的を達成するために2030年まで、2050年までの段階的な目標を掲げていることも理解できた。

2. この会社の競争優位性が理解できるか

三協立山の強みとして高い技術開発力、強固なビジネスパートナーネットワーク、多角化したポートフォリオという三つの柱が存在している。その三つを生かしてサステナブルな地域社会を創造するのに役立てようとしている。しかし、その具体的な内容がイメージしづらかった。他の企業、とりわけ競合他社よりどのような点で優れているか、が具体的かつわかりやすく書かれていなかったため、同社の競争優位性が理解できなかった。

しかし、環境面における三協立山の競争優位性は理解できた。同社は環境マネジメントシステムの構築の基盤となるISO14001の認証取得をしており、実績があることが理解できた。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

主要財務データが10年推移として書かれていることが持続性を見るという観点では評価できた。しかしながら、競争優位性が理解できなかったため推進力の有無も確認することはできなかった。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

従業員教育に関しては、新入社員の早期戦力化や職場定着を目的にチューター研修や段階的にフォローアップする研修を行っている。しかし、これらは他企業でも行っている取り組みであり、とりわけこの会社でのスキルアップが望めるかは疑問である。情報化が進むこれからの時代において、定年までこの企業で働きたいかと問われれば、他の企業で自分の人的資本の価値向上を目指したいと考えるだろう。社員がさらなるスキルアップができるようにもっとユニークな取り組みを期待したい。

5. 報告書にはどのような改善余地があるか

全体的に、この報告書は三協立山の事業戦略や財務についてある程度背景知識がある人間向けに作られていると感じたため、全くの素人でも十分に理解できるよう始めに企業の概要を説明し、わかりにくい語彙の説明などがあると尚良いだろう。確かに CSR や SIAA 等の補足はあるものの説明まではされていないため、略語の補足だけでなく用語の説明まで欲しいところである。また、従業員教育において具体的にどのようなことがなされているのか、従業員の声も交えて書かれていると、読み手はより詳細に知ることができるし納得もしやすい報告書になったかと思う。そうすることで将来の従業員となりうる人の興味を引くことができたはずだ。

細かいことにはなるが、CSR 活動実績、環境行動目標と実績の自己評価において、各項目が、天気マークが使われており、晴れマークが「目標・方針など達成」、曇りマークが「目標・実績など未達成」をいう扱いになっているが、それが個人的には分かりづらかった。単純に達成または未達成と書くか、何らかの記号を使うのであればマルバツで示せばよかったと思われる。

しかしながら、全体的に色鮮やかな見やすい図や写真、グラフを用いており、さらには SDGs の各目標との関連付けも行っていたのは評価できた。

参考文献

統合報告書 2021 <https://www.st-grp.co.jp/ir/pdf/Integratedreport2021.pdf>